

特別支援教育だより

第2号

令和7年6月19日
長崎市立深堀小学校
特別支援教育部

子ども達の頑張りが光った運動会が終わり、水泳学習が始まります。体力を使うことが多い時期です。しっかりと休養をとることが大切です。

前号の特別支援教育だよりに「困り感をもった子には、その子に合った適切な指導・支援を行っていきます。それが、特別支援教育です。」とお伝えしていました。今号では、その困り感をもった子を見つける手立てとしての「見守りシート」を紹介します。

〇見守りシートとは？

「見守りシート」は、子ども一人一人の「心と体の成長の様子」を、身近にいる大人が正しく理解し、もし、何かにつまずいていたり、困っていたりしたら、できるだけ早い段階から必要な支援を行い、健やかな成長を促すために、家庭と学校で見守っていくためのシートです。

保護者の立場から、お子様の心と体の成長の様子を把握していただくために、年に一度、見守りシートへの記入をお願いしています。学校では毎月、子どもたち一人一人に「生活調べ」を記入してもらい、各担任が学級の子どもたちの学校生活や家庭生活の様子を振り返っています。

これらの取組により、保護者、本人、担任のそれぞれの立場から、子どもたちの現在の心と体の発達の様子や学習面、生活面での課題等を把握します。そして、個別に配慮が必要な場合は、教育相談を実施するなど、学校と家庭が一体となって、子どもたちの健やかな成長をサポートしていきます。

〇見守りシートの取り扱い

見守りシートは年に一度、6月に実施します。見守りシートと「生活調べ」をもとに、夏休みに個人面談(保護者と担任)を行います。

書いていただいた見守りシートは学校で保管し、新年度のシートと比較しながら個人面談の参考にします。その後、次の年度に入りましたら学校で処分します。